

シシャモの河川遡上予測について

北海道立総合研究機構
栽培水産試験場

シシャモの河川遡上期について下記のとおり予測を行いました。終漁日決定等の際に参考にいただければ幸いです。

道南太平洋海域のシシャモは産卵期になると、雌の卵巣重量が体重の1/5～1/4に達すると河川へ遡上を開始することが知られています。また例年では、予測遡上開始日から数えて2～8日後に河川でのふくべ網調査（さけます・内水面水試）による捕獲ピークがみられています。これらの知見から、水産試験場では昨年、生殖腺重量指数（GSI：卵巣重量÷体重×100）が22に達すると推定される日を遡上開始日として、その2～8日後を遡上盛期として予測しました。

平成27年度は10月13日から10月30日にかけて鶴川沖、日高富浜沖で漁獲されたシシャモ雌（9サンプル・411尾）の成熟度調査を実施しました。GSIの上昇速度が安定した10月16日以降のデータを用いて推定した結果、**主群の遡上開始日は11月5日ごろ**と予測されました。しかし、10月31日に**予測より早く鶴川および沙流川へ遡上したシシャモがあった**ことが確認されました。また、**遡上盛期は11月7日～11月13日ごろ**と予測されます（図1）。

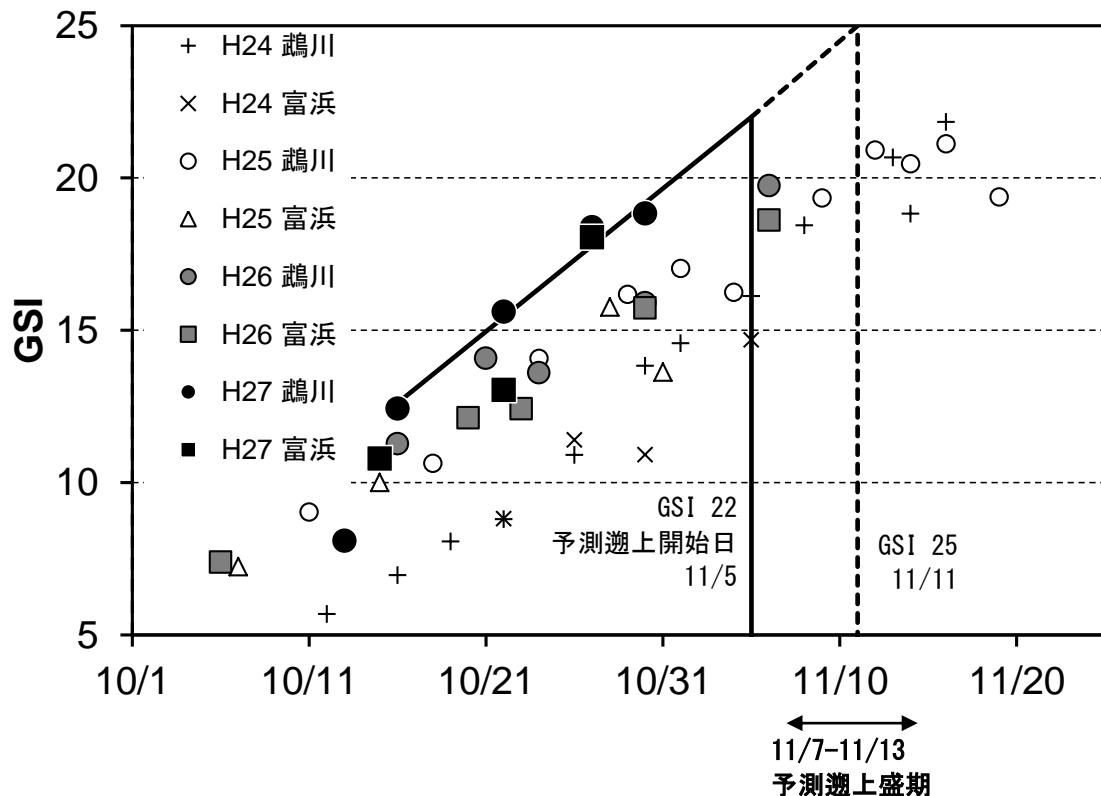


図1 生殖腺重量指数の変化から予測したシシャモの遡上盛期

今年度は、漁期前分布調査の結果や10月の漁獲状況（図2）から、シシャモの資源状態が非常に悪いと考えられます。そのため、遡上親魚量を確実にかつ十分に確保するために、遡上盛期前にできるだけ早く終漁することが望ましいと考えられます。**鵜川親魚遡上調査（さけます・内水面水産試験場）の結果**も考慮しつつ、終漁日の決定について総合的な判断をお願い致します。

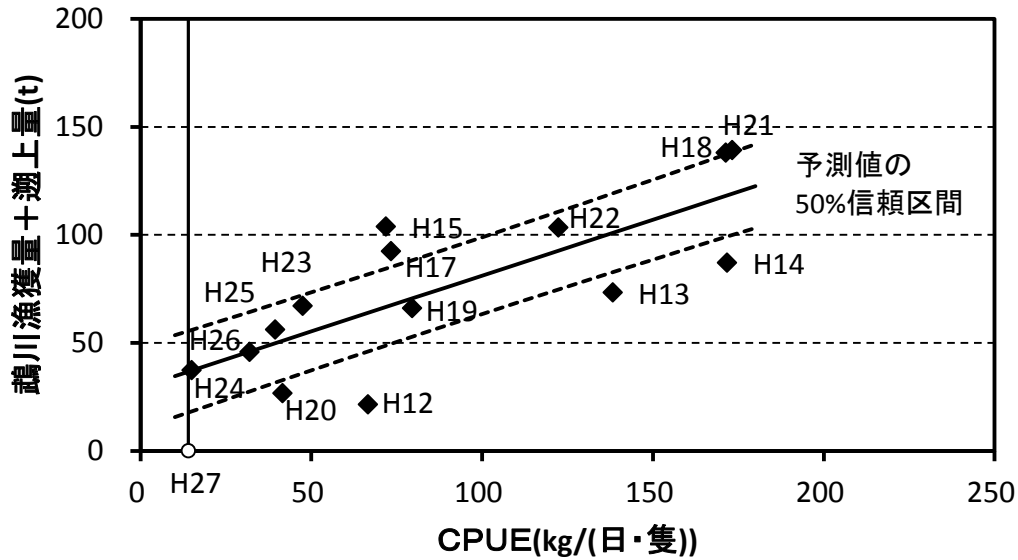


図2 鵜川におけるCPUE(1日1隻あたり漁獲量)と「鵜川漁獲量+遡上量」との関係
 CPUEはH27では10月26日まで、H26以前は10月31日までの操業実績で計算

連絡先 0143-22-2327
 調査研究部 管理増殖グループ